

市長が考えるリーダー像・リーダーシップとは



植田 通孝
(21 政会)

問 市長の所信表明を聞き、活力ある加西を未来につなぐため、心豊かな市民の生活を守るため、5万人都市加西の再生のための熱い思いを痛感した。議会と行政が協力して、新しい元気な加西市づくりを目指し、私も微力ながら、できる限りの協力と歯に衣着せぬ苦言を呈していく所存。

国政の迷走ともものづくり日本の目を覆うような経済の空洞化、それに追い打ちをかけるような東日本大地震による想定外の大津波と福島原発事故の発生は、国政の混乱に一段と拍車をかけたように思う。リーダーの不在、リーダーシ

ップの欠如、協調性のない国会議員の無力さ、放射能汚染が住民、特に幼い子どもたちや妊婦に及ぼす影響に関する科学者とマスコミの甚だしい正義感の欠如に、歯がゆい思い。日本の未来、日本人の未来はどうなってしまうのか憂慮せずにはおれない。

日本の未来は加西市の未来であり、日本人の未来は加西人の未来である。私たちが暮らす加西市は、田舎の小さな地方都市に過ぎないが、まず加西市を元気な加西市に再生し、日本再生の模範となるべく頑張っていきたい。

明るい加西市の未来を多くの市民から託された市長が考えるリーダー像、リーダーシップとはどのようなものか。

答 市長という職務を行うリーダーという意味では、

- ①職員はもとより、市民からも、行政にかかわる関係者からも信頼されていること
- ②事に当たってメンバーとの十分な協議を行うこと
- ③置かれた状況の中で正しい判断に基づき決断ができること
- ④市政にかかわる過去、現在、未来に責任を持つことと考えています。

■その他の質問項目

- ・市内産業（農を含めた農商工業）の実状
- ・人口増対策
- ・地球温暖化問題
- ・スマート・グリッド社会の構築

西谷坂元線及び環状線の整備状況について



中右 憲利
(21 政会)

問 西谷坂元線の工期は平成23年度末となっているが、一部土地の買収ができずに止まっていると聞く。西谷坂元線工事の現状と今後の方針は。

また、この道路は今から整備される予定の小谷西谷線へとつながって、北条の町を囲む環状線になると聞かすが、今後の道路整備の方針は。

答 市道西谷坂元線の現状は、現時点で総延長 1,940m のうち 87%が発注済です。ただ、未買収地が残っており、地権者と交渉を進めているところです。今年中に

は何とか合意に至り、その間の工事発注に努めたいと考えています。現在、窪田町の中国道ボックスから県道三木穴粟線までの工事区間の延長を県へ要望しております。

また、西谷坂元線のその先、環状線となる道路の整備計画は、高室市村線、西谷坂元線に続き、市街地の環状道路として小谷西谷線の整備構想を持っています。

小谷西谷線は、圃場整備事業で用地を先行取得していますので、その用地を活用した整備を今後進めたいと考えています。現在、県とも協議中で、実施年度については明言を避けたいと思いますが、西谷坂元線が出来てから着工するのではなく、3年間延伸した中で平行して着工し、西谷坂元線が完了した後、もう少しで小谷西谷線も完了する形での整備に持っていきたいと考えています。



西谷坂元線

■その他の質問項目

- ・学校の耐震化
- ・学童保育
- ・水道料金